

キーワード	介護予防に関するボランティアの養成、介護予防推進連絡会、通所型・地域型・訪問型介護予防
-------	---

「佐々町介護予防ボランティア」の地域デビューを促進する介護予防事業の展開

長崎県 佐々町

【この事例の特徴】

介護予防ボランティアを養成し、登録希望者を「佐々町介護予防ボランティア」として登録している。介護予防ボランティアは、福祉センター、地元地区集会所、訪問型などの活動に参加している。またボランティアの情報交換や知識習得のための佐々町介護予防推進連絡会を組織している。介護予防ボランティアを活用し、より身近な地域で、介護予防の地域づくりを展開している。

地域概要

総人口:	13,767 人
65 歳以上人口:	3,181 人(23.1%)
75 歳以上人口:	1,647 人(12.0%)
要介護要介護認定者数:	530 人(16.7%)
地域包括支援センター数:	1 ヲ所
第 5 期介護保険料:	5,990 円



背景・経緯

【背景】

- 佐々町の介護保険制度に関して、以下のような問題意識を持っている。
 - ✧ 住み慣れた地域で過ごしていただくために、必要な人には必要なだけの介護サービスを十分に利用してもらいたい
 - ✧ 佐々町住民の保険料が必要な人に適切に使われているか、国民の共同連帯の理念に基づいた利用のされ方となっているか
 - ✧ 介護保険法第 4 条 国民の努力及び義務の再確認
 - ✧ 「できないことの支援」ではなく「できていることの継続や改善可能な部分の支援」へのこだわり
 - ✧ 多様化する高齢者ニーズに介護保険制度だけでは対応できない
 - ✧ 自立となったのちも不安なく在宅で過ごせるための地域支援体制の整備が必要
- 問題意識を受けて、①給付の適正化と②介護予防を含む地域支援体制の確立に取り組んでいる。
- ①「給付の適正化」のために、以下のような目標を掲げた。
 - ✧ 自立した高齢者割合の増加
認定率を 2015 年までに国平均レベルに近づける(軽度者数減を指標に！)
 - ✧ 在宅生活者割合の増加
要介護 2～5 の施設・居住系サービス利用者割合の減を目指す

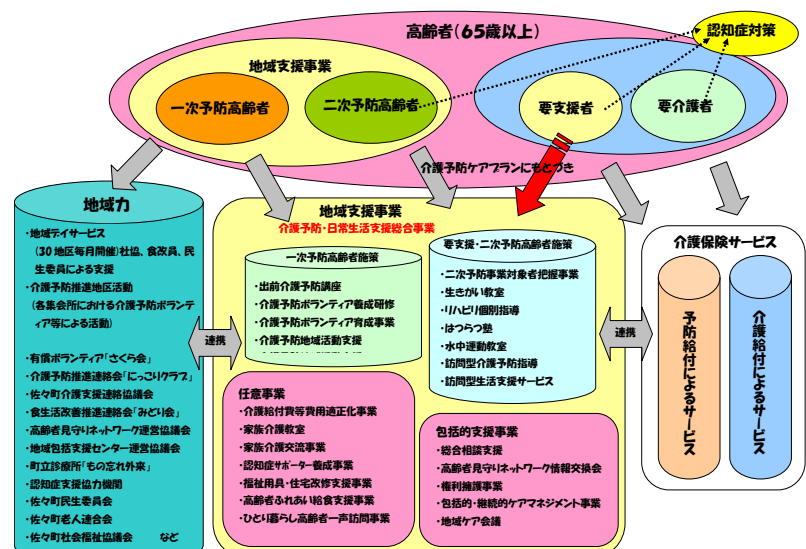
- 上記の目標を達成するために、以下のような取り組みをしている。
 - ✧ 要介護認定の申請時の理由確認の徹底（介護保険制度・地域支援事業の説明）
 - ✧ 認定者でサービス利用のない方への訪問活動
 - ✧ 『地域ケア会議』における自立支援型ケアマネジメント支援と給付適正化事業を実施（毎週 1 回）
生活行為評価の導入、介護サービス利用に関して廃用症候群・認知症の予防・改善に重点を置く
- ②「介護予防を含む地域支援体制の確立」のために、以下のような取り組みをしている
 - ✧ 75 歳以前からの介護予防（身体機能維持・認知症予防・閉じこもり予防等） が重要
 - ・ 佐々町の介護保険制度の現状とビジョンを伝える出前講座
 - ・ 地区集会所を活用した介護予防活動の推進・介護予防ボランティア育成
 - ・ 団塊の世代を対象とした『地域デビュー講座』
 - ・ 総合福祉センターを活用した介護予防事業のメニューの拡大
 - ✧ インフォーマルサービスの確立・推進
 - ・ 「こんな支援があれば、まだ在宅ひとり暮らし大丈夫！」というような支援体制の確立（傾聴・家事支援・中学生登校時ゴミ出しなど）
 - ✧ 認知症になっても安心して過ごせる地域づくり
 - ・ 認知症サポーター養成、全町内会へ（地域支援連絡会にて福祉劇団）
 - ・ 町立診療所（神経内科）と密接な連携を図る

【介護予防の取り組みの変遷】

- 平成 18 年 地域包括支援センターの稼働とともに、一遍通りの介護予防を住民に投げかけても何の変化もなかった 2 年間。その間に合併問題が浮上。地域サロンは全地区で月 1 回程度、定例で開催されていたが、専門職の関与がないと成り立たない状況であり、合併とともに消失する可能性が生じた。
- 平成 20 年 「介護予防ボランティア養成講座」をスタート、地域サロン参加者に自分たちでもできる介護予防の習得を目的に開催。現在 6 年目、団塊の世代を対象に地域包括支援センター・健康センター・社会福祉協議会と協働し、「地域デビュー講座」として継続中。
- 平成 20 年に、養成講座の修了生による「地域型介護予防推進活動」がスタート。

当初は 8 カ所立ち上がり、現在 14 地区。今後、全町内会（30 地区）開催を目標に展開中。
要支援・二次予防高齢者向けの介護予防事業にも「通所型介護予防推進活動」として活躍。
要支援・二次予防高齢者向けの生活支援サービス「訪問型介護予防推進活動」として稼働開始。

佐々町の高齢者を支える地域支援体制図

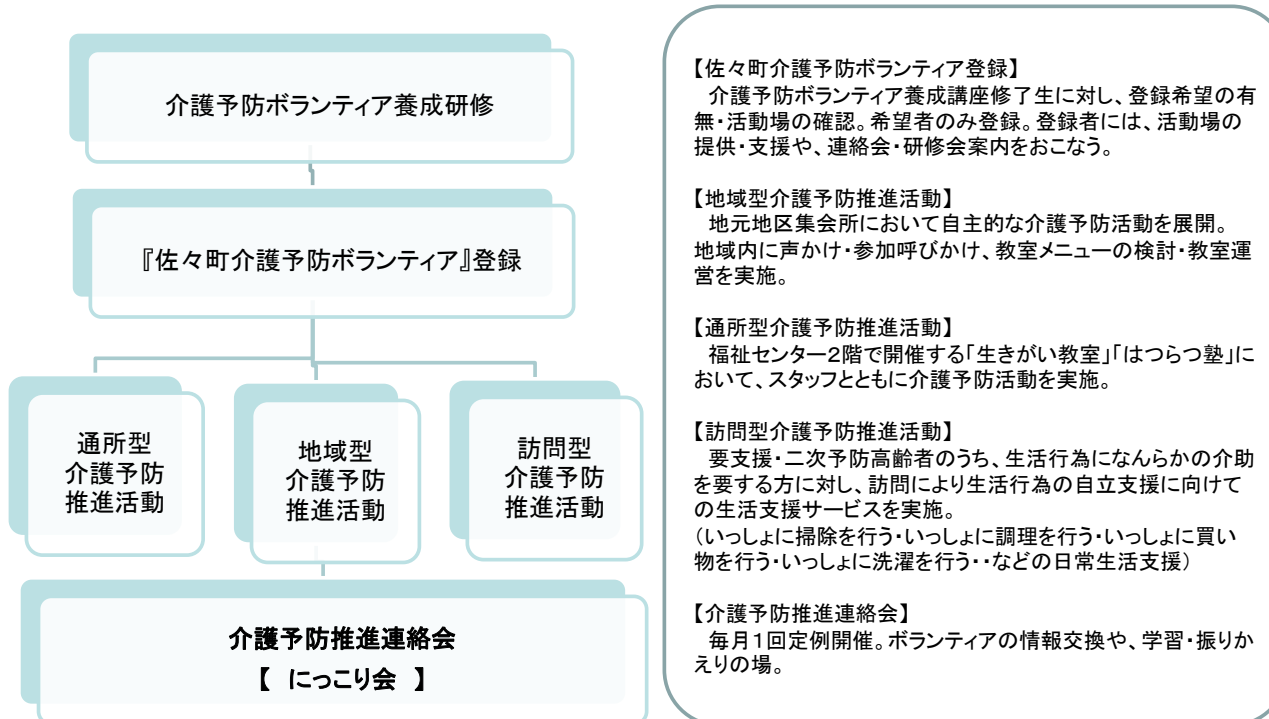


取り組み内容と方法

【概要】

- 介護予防ボランティアを養成し、登録希望者を「佐々町介護予防ボランティア」として登録する。ボランティア活動としては福祉センターでスタッフとともに実施する「通所型」、地元地区集会所における「地域型」、要支援・二次予防高齢者宅を訪問して一緒に家事等を行う「訪問型」の活動がある。

介護予防ボランティア組織図



【通所型介護予防推進活動の活動例】

- 生きがい教室 運動・口腔体操、昼食・入浴、囲碁将棋・映画など 5 時間
- はつらつ塾 手作業クラブ・カラオケクラブ など 2 時間
- おとこ料理クラブ 健康相談センター調理室にて開催
- カントリークラブ 農作業を展開



生きがい教室



はつらつ塾



おとこ料理クラブ



カントリークラブ

【取り組み方法】

- 介護予防ボランティアの育成を行っている

介護予防ボランティア養成講座の開催実績

	内 容	修了生
平成 20 年 度 (2回)	○介護予防における佐々町の取り組み ○心身における介護予防！～運動実践～ ○口腔機能における介護予防！ ○高齢者の栄養について ○グループワーク「各地区での取り組み状況について」 〃 「今後の介護予防ボランティアの活動について」	56 名
	特定高齢者施策『元気アップ教室』卒業者を『介護予防ボランティア養成講座』修了生と認める	20 名
平成 21 年 度 (4回)	○介護予防における佐々町の取り組み ○心身における介護予防！～運動実践～ ○口腔機能における介護予防！ ○高齢者の栄養について ○グループワーク「各地区での取り組み状況について」 〃 「今後の介護予防ボランティアの活動について」 ○認知症サポーター養成	33 名
平成 22 年 度 (6回)	○脳と身体 の健康寿命を永く保つために ○口腔機能における介護予防！ + ワークショップ ○心身における介護予防～運動実践 + ワークショップ ○高齢者の栄養について + 佐々町の介護保険の現状 + ワークショップ ○高齢者の介護問題について(介護者の会合同研修) ○認知症を正しく理解しよう！～認知症サポーター養成 ワークショップ「今後の介護予防ボランティア活動について」	60 名

● 佐々町介護予防推進連絡会『にっこり会』

◇ 介護予防ボランティアをはじめとした関係者間が相互に連携し、情報交換および介護予防に関する知識の習得を行い、地域における介護予防の推進を図ることを目的として平成 21 年 2 月に設立した。現在、登録会員数は 45 名。

◇ 毎月第 4 水曜日に定例会を開催し、そこで得た元気や知識を地域に持ち帰り、運動や脳レクレーションなど介護予防活動を推進している。新規メニュー紹介（運動／脳レク／手芸など）、各地区の情報交換・活動報告などを行っている。

● 専門職の関与

◇ 養成講座で佐々町の現状・方向性を皆で明確にし、共有している。

◇ 「介護予防推進連絡会」を月 1 回開催し、介護予防ボランティアのみではなく、介護予防事業担当者や地域サロン担当者も参加している。佐々町における介護予防の方向性の統一化および個々のケースの切れ目ないケアの実現を図っている。

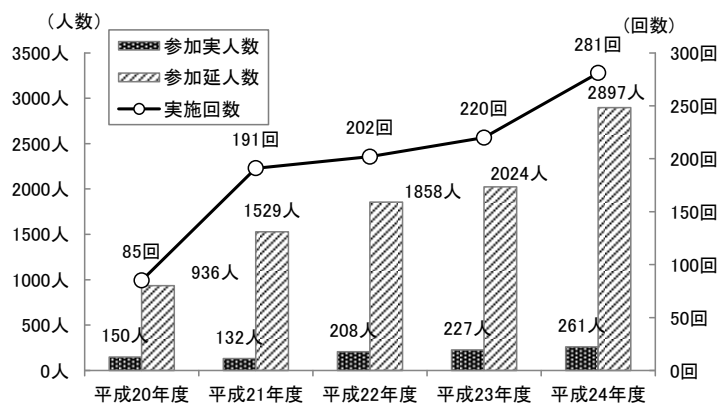
◇ 町全体の介護予防への取り組みの方向性がぶれないよう、定期的に住民や各関係団体へビジョンを確認し、成果を報告している。

取り組みの成果と課題

【成果】

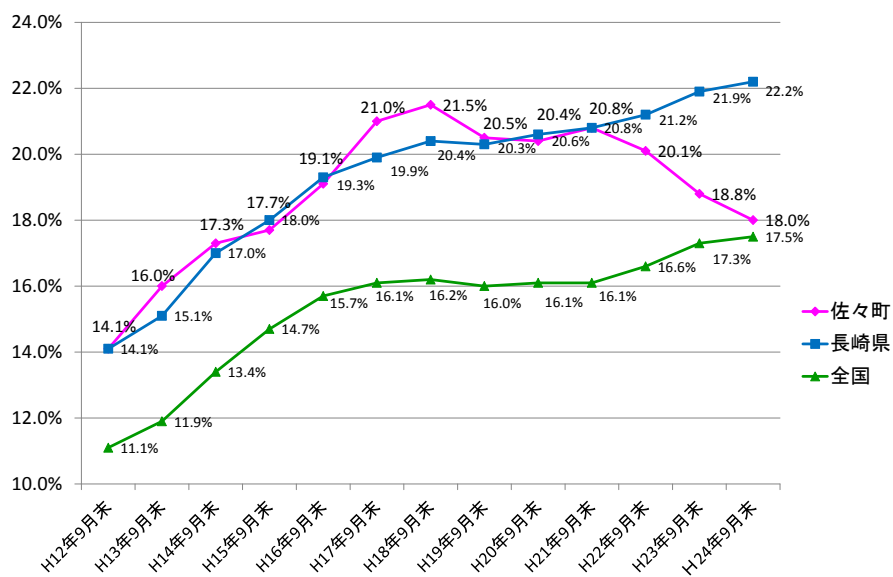
- 活動回数・参加者数が着実に増加している。
 - ◇ 介護予防ボランティア地域活動の参加者数は、平成 20 年度に実人数 150 人、延べ人数 936 人であったのが、平成 23 年度には実人数 362 人、延べ人数 2024 人と 2 倍以上に増加した。
 - ◇ 介護予防ボランティア地域活動の活動回数も、平成 20 年度の 85 回から、平成 23 年度には 220 回と、3 倍近くに増加している。

介護予防ボランティア地域活動実績の推移



- 参加者からの満足の声が聞こえてくる。
 - ◇ 椅子に座って自分ができる運動を一諸に行われる。皆に会えるのが嬉しい。(93 歳女性)
 - ◇ 我が家でも自分の為と思い、毎日運動する習慣ができました。(90 歳女性)
 - ◇ 思わぬ所で怪我をしそうになったが大事に至らずよかった。これも運動していたからだよね。(88 歳女性)
- 要介護認定率が、全国よりも高い水準にあったが、急激に下がってきている。

要介護認定率の推移



【課題・今後の目標】

- 後継者に苦慮している。若い人に声をかけているが、なかなか参加につながらない。
- 今後の目標は、介護予防ボランティアによる介護予防の推進活動を全町内会 30 地区に展開し、町内における介護予防の知識普及や実践拡大を図ることである。住民と行政がひとつになって「自ら介護予防に取り組み、みんなで支え合う佐々町！」を目指している。

参考 URL、連絡先

- 佐々町地域包括支援センター
電話:0956-62-6122
- 厚生労働省 関連ウェブサイト
http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/yobou/dl/kyouka2_4.pdf